



会報

SHINSHIYOU

神私幼

平成26年12月1日

第190号

(昭和29年7月10日創刊)

発行：公益社団法人 神奈川県私立幼稚園連合会
 発行人：会長 小澤 俊通
 編集人：神私幼総務部(広報室)
 発行：年4回(6月・9月・12月・3月)
 発行部数：1700部

<http://www.shinshiyou.com>

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F
 TEL. 045 (440) 3210 FAX. 045 (440) 3209



公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会



INDEX

2

会長挨拶

幼児教育の未来、私立幼稚園の役割と責任
新制度施行を目前にして

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会 会長 小澤俊通

3

要望

子ども・子育て支援新制度への移行に向けた
 神奈川県の対応について

変革の時代をどう乗り越えていくのか 振興部長 石井和則

今年の新潟大会

第28回関東地区代表者協議会開催される 副会長 鈴木伸司

4

研修事業部・研究部活動報告

5

研修事業部

教員免許状更新講習／統合保育基礎講座／公開研究保育研究部

新規採用教員研修会／若手後継者のための保育勉強会

6

平成26年度神奈川県私立幼稚園父母の会連合会
 研修大会報告

**子育てを通して「親心」を育み
 人間社会の絆を強く**

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 副会長 平林美和

7

全日本私立幼稚園連合会**設置者・園長全国研修大会in 高松** 副会長 安西 透**Pride of KANAGAWA**

8

研修会報告

教育相談室から

上原芳枝先生「しなやかなパワーの集合体」

教育相談員 鈴木敦子

会長
挨拶

幼児教育の未来、私立幼稚園の役割と責任 新制度施行を目前にして



公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

会長 小澤俊通

月日の流れるのは早いもので、師走の声を聞くようになり、町にはジングルベルの音楽が流れるようになりました。加盟各園の先生方には、お元気で年末をお迎えのことと存じます。

新制度を乗り越えていこう

さて、平成二十七年スタートの「子ども・子育て支援新制度」に向けて、各園の取り組みは如何でしょうか。今まで

通りの「私学助成の幼稚園」を選択された園は八〇%以上となり、「施設給付型の幼稚園」「幼稚園型認定こども園」「新幼保連携型認定こども園」の三類型は合わせても二〇%を下回ることが明らかになりました。現在の段階では、この制度の未熟さや不備な点がクローズアップされており、不透明なままでの移行に不安を抱かれるのは当然のことだと思います。特に「認定こども園」と「個人立幼稚園」には厳しい選択を求められ、ご判断に苦慮されたことと存じます。残念ながら「認定こども園」を返上するという事態が生じてしまったのも、この制度を拙速に進めようとする国のかたくな姿勢がもたらしたものでしょう。市町村の判断により制度の開始を遅らせることが出来るよう働きかけても、国の行政担当者の姿勢は変わることはありません。いよいよ来年度にはこの制度は未熟なまま始まりま

す。県連としては引き続き速やかな情報提供と制度のさらなる改善を要望していきたくと考えています。新制度に向けての各園それぞれの選択とご判断を尊重しつつ、地域における幼児教育の推進に益々ご奮闘頂きますようお願い申し上げます。

県への要望活動

九月の県議会においては自民党の桐生議員から、新制度に関する質問があり、問題の多いこの制度に対して、神奈川県としての行政対応を正して頂きました。

次世代育成成課は認定こども園への個別対応窓口を設置し、個別具体的に問題を共有しようとして努力して頂いております。私学振興課においても、新制度に対応する「収容定員の弾力化」や「幼稚園教諭の人材確保」に知恵を出して頂き、私立幼稚園を応援しようと頑張っ

て頂いております。一〇月二十三日(木)には県連正副会長始め役員が松森県民局長を訪問し、要望書を手渡してまいりました。県は二十七年度の予算編成において五五〇億円の財源不足が見込まれ、施設への直接助成の実現に向けてのハードルは厳しい現実ではありますが、繰り返しの要望活動を続けたいと考えます。

全日私幼連の対応

全日私幼連においては、新制度への対応と同時に、これからの組織のあり方を議論しようとしています。私は「組織強化検討会議」の一員として、理事会へ提案する内容を検討しております。今後全国では「認定こども園」や「施設給付型幼稚園」が増えていくことが予想され、会員資格や会費徴収の方法などが課題になっ

性を決めていくことになります。基本的な方針は、施設の類型は様々になっても、今までの会員がそのまま継続できる組織のあり方を模索していくことです。全国組織は現在のように大きく一つにまとまり、国や国会議員への働きかけを強力に推し進めていきたいと考えております。新制度の改善も組織の力があつてこそ実現するものです。皆様のご理解を頂けるように、議論を主導してまいりたいと考えています。

周年行事に招かれて

会長職にありますと、各園の周年行事やお祝いに招かれることがあります。その場で感じるのは、どの園も地域の幼児教育の核として歴史を積み重ねてきたことです。建学の精神や教育理念は地域に浸透しており、設置者や教師陣の献身的な努力により、しっかりと地域に根付いていることです。保護者から感謝され、多くの卒園児を送り出し、営々と築き上げてきた歴史は何事にも代え難いものです。これからも全ての加盟園が幼稚園教育の旗を高々と掲げて、次の一歩を歩んで頂くようお願い申し上げます。

課題が山積のまま新しい年を迎えることになりましたが、皆様の英知を結集して県連の活動を進めてまいりたいと存じます。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

要望

子ども・子育て支援新制度への移行に向けた 神奈川県の対応について

変革の時代をどう乗り越えていくのか

振興部長 石井和則



本連合会が七月に実施した「新制度移行に係る意向調査」では三割の移行希望がありました。県が市町村を通して実施された「新制度移行の意向調査」においては、二割を下回る一七・七%の状況で多数の私立幼稚園が見送り、「私学助成の継続」を選択するという結果となり、新制度自体に問題や課題が山積するものと考えております。第三回の県議会の代表質問において知事へ要望がされましたように、「新制度への移行に向けた独自の施策」について早急に検討をお願いしたく、一〇月二十三日(木)小澤県連会長

他一〇名の役員が同行し、会長より松森県民局長に要望書を直接手渡し、以下の通り四つの問題点について要望いたしました。

1 移行後の私立幼稚園の安定した経営のため、独自の施策を予定する市町村もありますが、それ以外の市町村にあっては財源確保が難しい等の理由から独自の施策は行えない現状があります。県の財源を確保して頂き、市町村独自の施策が行えますよう県の財政支援又は県独自の施策を要望いたします。

さらに、知事のご答弁にありますように、国の公定価格の決定にあたり、本県の新制度の状況を説明し、施設運営の実情や地域の状況を反映されますよう国に対し公定価格の算定の見直し等必要な提案、要望を積極的に行われますようお願いいたします。

2 新制度における県の広域調整機能について、市境地域の幼稚園にあっては煩雑な事務負担が生じるので、県内自治体間の保護者負担や事業者向け助成項目・金額の調整が必要であり、自治体間の格差が生じないような配慮をしていただけるよう要望いたします。

3 新制度移行園の定員・実員情報などについて市町村に対して速やかに情報伝達されるよう要望します。認可定員に関する「神奈川県私立幼稚園の定員適正化等の基本的な取り扱いの改正（私立幼稚園設置者宛 平成二十六年九月二十六日付け私振第三八〇号）」が通知されました。改正通知に則り、新制度移行前に定員増の可否について事前に判断し、新制度移行園・市町村に伝達していただければ、各市町村における利用定員

4 新制度への移行園は、平成二十七年以降、一斉に園則変更、定員変更等の事務手続きを行うこととなります。この事務手続きにあたっては、迅速に対応し、速やかに手続きが出来ます様、ご配慮を検討願います。

以上四つの要望を受けて松森県民局長からは、県の財政難もあり、県独自の支援についてはあまりいい返事が返ってきませんでしたが、公定価格・広域調整・定員超過・園則変更など多くの課題について、次世代育成成課では個別の相談窓口を設けるなどして、国と市町村のパイプ役として県の役割を果たしていくという回答をいただきました。いずれにしても、県が主導権を発揮し、新制度に移行するしないにかかわらず、子どものことを第一と考え、どの園も子どもたちのための質の高い幼児教育が維持継続できるようにしていただき、また、将来を担う子どもたちをどのように育てていくのか、という国の指針を明確にしていくのと同時に、幼児教育こそが持続可能な日本の国をつくっていく礎になる、ということを再認識させていく制度になつてほしいと願っています。

今年は新潟大会

第28回
関東地区代表者協議会
開催される



副会長 鈴木伸司

平成二十六年十一月六日・七日に新潟県新潟市にて、「変革の時代を考える」選択のキーワードはこどもがまんなか」を協議テーマに、第二十八回関東地区代表者協議会が開催されました。これは例年、各県の幼稚園団体の役員と幼稚園担当の行政官が参加し、関東八県の持ち回りで実施している会議です。

県連会からは、小澤会長はじめ副会長・研究部・研修事業部・振興部の各部長が参加しました。神奈川県からは、所管行政の代表として私学振興課の大里主事に開会式から全日程にご出席頂きました。

初日は、研修Ⅰとして神長美津子先生（國學院大学）の「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の講演と、今年七月から文科省の幼児教育課長に就任した洲上孝課長から子ども・子育て支援新制度についての行政報告（研修Ⅱ）がありました。新制度施行に向けて今まで検討課題としてきた利用定員の扱い、定員超過園の扱い、確認の事務手続等について最新の情報提供がありました。

二日目の研修Ⅲでは、参加八県の行政官から「私立幼稚園の現状と課題」というテーマで私幼に対する補助金の現状、認定こども園への移行状況、新制度に対する各県の対応等について報告がありました。

各県とも新制度が始まって、やはり県としての関わりは薄く、さほど踏み込んで関与している所は無いという印象でした。一方、私学助成に残る園に対しては継続してしっかり補助していきたい、という報告が多くありました。新制度移行元年を間近に控え、各県団体の役員の方々と情報交換が出来たことは、今後の神奈川県を進め方に参考になることも多く、大変有意義な会となりました。

研修事業部・研究部

活動報告

研修事業部

教員免許状更新講習

養成校の全面的な協力のもとに

研修事業部長 田中伸宜

去る十一月八日・十五日・十六日の三日間、秋季免許状更新講習選択十八時間が湘南地区主導のもと開催されました。教室から相模湾を展望できる景色の良い小田原短期大学をお借りして、三日間延べ二三〇余名の受講者がありました。日頃、横浜周辺

で講習会や研修会が数多く開催されますが、こうして横浜以外の他地域で開催すること意義も感じた講習会でした。

この講習は昼食をはさんで一日六時間の講習で、受講者もスタッフも休日返上で一日がかりの講習会となります。今年度、夏と秋の教員免許状更新講習を担当して、その大変さを痛感しました。開催自体も、そこに携わるスタッフも大変ですが、なによりそこに通われる受講者も大変です。職場や家庭を離れて、三〇時間の講習を受ける



これは容易ではありません。来年度も県連としてこの免許状更新講習事業は継続していきませんが、三〇時間の更新講習は余裕のあるときに受ける必要があります。

すべての履修証明が揃った表をご覧いただき、手続きを完了して下さい。開催にあたって小田原短期大学関係者や湘南地区の先生方、県連の先生方、本当にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

統合保育基礎講座

子どもの理解と対応

そして適切な家族支援を考える

研修事業部次長 山田まり子

今年度も全四回の統合保育基礎講座が、好評のうちに終了致しました。毎回一二〇名程の受講者が集まり、真剣に上原文先生の講義に聞き入っている姿が印象的でした。一回目、二回目は「子どもたちの今日の状況」。落ち着きのない子、気になる子が増えている昨今、その背景を知り、保育の方法を具体的



にお教え頂きました。愛情不足様の状態を示す子が増えている事も語られ、妙に納得してしま



う状況でありました。幼稚園教諭の役割は重要であり、保育の工夫や配慮で子どもが変わる事が理解できました。

三回目、四回目は「本当の家族支援とは」。子どもは家庭・家族の影響を大きく受け生活しており、子どもの心の発達には親の受容に関わっている事を語られました。社会の変化と共に家族の形や生活リズムも大きく変わり、幼稚園教諭はどの様な役目を果たして行けば良いのか真剣に考えてしまう場面でした。

また、不適切な養育、虐待についても語られ、避けては通れぬ問題であると再確認しました。大人の精神障害についても学び、それらを知っている事の大切さ、幼稚園という一つのチームとしての対応策をお伺いし、難しさを強く感じました。

「統合保育基礎講座」と言いつつ、支援を要する子への対応だけでなく、多くの問題を上げ学ぶことが出来ました。幼稚園教諭としてどう考え、対応して行くか、幼稚園の役割は何ぞや、そんなことを感じながら今年度も終了と致します。

公開研究保育 他園の保育実践に学ぶ

研修事業部 志村雄治

平成二十三年から横浜市の二園で始まった「公開研究保育」は、過去に相模原市と川崎市、茅ヶ崎市と横浜市の二園ずつで行われ、今年度は次の二園で開催されました。

・川崎市「健正学園ゆりかご幼稚園」
平成二十六年十一月八日(土)

園長 荒井 晶子先生
講師 相良 敦子先生

(長崎純心大学大学院教授)

・愛甲郡「中津幼稚園」
平成二十六年十一月十九日(水)

園長 齊郷 浩之先生
講師 桐川 敦子先生

(日本女子体育大学講師)

八日に行われた健正学園ゆりかご幼稚園では、まず参加者がホールに集合し、講師から公開保育見学の保育の見方、視点について詳しい解説があり、幼稚園から保育予定、注意事項についてお話がありました。

その後午前中は保育見学、昼食後に幼稚園から当日の保育についての説明、学年ごとの担任教諭から実践報告等を話して頂きました。そして、講師からバズ討議の柱立てについて説明があり、公開保育園の教諭も加わってグループ討議を行い、最後に講師から保育実践や幼児理解についてのまとめをして頂きました。

十九日に行われた中津幼稚園でも同様な流れで行われ、参加者もとても有意義な研修になったという感想が多かったです。

今年まで四年で八回の公開研究保育を行いました。参加者にとって、公開保育園の保育は新鮮で、ただお話を聴くだけの講習会に比べてとても深い研修ができると、大変好評です。また、公開保育園の教員にとっても、始まる前は緊張し、とまどい、気が重い感じでしたが、参加者からの意見や励ましの言葉を頂き、大変勉強になったという感想が多く聞かれます。次年度も多くの先生方のご参加をお待ちしております。

研究部

新規採用教員研修会

新規採用者研修会を終えて

研究部次長 黛 裕治



今年度も予定された研修会が無事に終了しました。公立園との合同研修の二回を含めた五日間、十一講座を設定し、県内(横浜・川崎・相模原の政令市を除く)の幼稚園に、今年度新たに採用された教員を対象に行われました。当初は、緊張し自信無さそうに受講していた先生方も、多くを経験し学んで、今では少し頼もしく感じられるようになりました。

今年度の研修の内容

- 神奈川の私立幼稚園 (小澤 俊通)
- 保育者の役割―新人に求められるもの― (塩 美佐枝)
- 体験しようアドベンチャー教育①②
- 子どもの理解と保育者の援助 (平山 許江)
- 子どもの心に寄り添う保育 「子どもの見方・捉え方」(小泉 裕子)
- 楽しくなければ造形でない (平田 智久)
- 指導計画作成について ―経験の多様性・連続性― (佐藤 康富)
- 実技
- ・造形 身体でアート (照沼 晃子)
- ・絵本 保育における児童文化財 (内藤 知美)
- ・自然 (絵本 紙芝居)の活用(内藤 知美)
- ・保育に生かす草花あそび―子どもと自然をつなぐ― (佐藤 英文)
- ・体を動かす遊び (有木 昭久)
- ・伝承遊びとその展開・新聞あそび (敬称略)

若手後継者のための保育勉強会

二十一世紀を生きる子どものため、 学び・考える貴重な時間となるように

研究部 櫻井喜宣

今年度二回目となる保育勉強会ですが、八月二十五日・二十六日の二日間にわたり「自園と私立幼稚園の『保育の質の向上』に繋がっていくように」をテーマに玉川大学教授若月浩先生をコーディネーターに迎え、静岡県の野中保育園・なかよし保育園で保育・施設見学勉強会が実施されました。

また、三回目は十一月十九日に『守・破・離』をテーマとして聖心女子大学教授河邊貴子先生による勉強会パート2が実施されました。

二回目の野中保育園では、前半の保育・施設見学の後、事務長兼園庭長の中村章啓先生から保育理念でもある『大地保育』についてのお話がありました。「多様で変化に富んだ環境下で、主体的な取り組みを通じて、子どもたちが自ら学び育つことを見守る保育ということを日々大切にしている」というお話から始まり、保育園が考える児童像、子どもと共に生活をしている職員像、園舎・園庭などの施設環境、保護者との協力についてや子育ての社会化など、多岐にわたって様々なお話をさせていただきました。

参加した先生方からは「たくさんの共感と大きな課題をもらった。保育の質の向上へ向かって自園がどのような第一歩を踏み出せるか、これからよく考えながら進んでいきたい」との話もありました。



翌日のなかよし保育園では、園長の北山茂先生からのお話を伺ったり、新園舎落成の際に上映した保育園の歩みのDVDを見

平成26年度神奈川県私立幼稚園父母の会連合会
研修大会報告

平成26年11月18日
パシフィコ横浜
会議センター
メインホール



講師 松居 和 氏

子育てを通して
「親心」を育み
人間社会の絆を強く

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会
副会長 平 林 美 和

澄み渡る秋空の下、会場となりましたパシフィコ横浜には、県内全域より数多くの会員の皆さまにお集まり頂き、大盛況の中、開会式が始まりました。

最初に主催者より、子ども・子育て新制度発足に向けた保護者の想い、子どもたちを取り囲む環境の変化や家庭・幼稚園・地域社会が連携して子どもを見守り育てていく環境の大切さを力強く訴える挨拶がありました。

ご多忙の中、会場に駆けつけてくださいました、ご来賓の神奈川県副知事・吉川伸治様、神奈川県議会副議長・小川久仁子様、私学審議会会長・中村省司様には今日の幼稚園教育に対するご理解あるお言葉と共に、更なる多岐にわたる子育て支援の拡充を、と力強いご挨拶を頂きました。

ここに改めて、私たちの子育て、子ど

もたちの成長は、私たち保護者だけでなく多くのご支援とご協力があったて成り立っているものだと思われ、感謝いたします。

開会式が終了し、音楽家であり作家として活躍されている松居和氏により講演『子育てはかすがいい』が始まり、社会に絆が生まれる、が始まりました。保育現場の話、経験、実際に出会ってきた親子などのエピソードを交えながら、子どもと向き合うことについて



お話くださいました。新生児を始め、幼児という絶対的弱者とつきあうことによって、人間はその本性を知り、優しさなどの人間性を身につけ、「子育て」とは、子どもを育てる以上、それをするによって親たちが育っていくこと、親心が社会に満ちてゆくことだとお話くださいました。私自身わが子をこの腕に抱いてから、それまで知らなかった感情に日々出会い、一喜一憂しながら、新しい自分を築いているような気がします。

また、子どもたちが安心して育つていくための大切な条件のひとつとして、親子、保育者と子、親と保育者の「信頼関係」であることを松居氏は力強く訴えました。子どもを「どう育てるか」ではなく、育てる側の「自身がどう成長できるか」「信頼関係がどう育つか」が、子育て・子育ての意義であるというメッセージがとても印象的でした。

そして何よりも大切なこととして、「精神的健康」とありました。一

生懸命になればなるほど、理想と現実の狭間で悩み、苦しんでしまうものです。うまくいくことより壁にぶち当たっている方が多いのではないかと思っている私の姿は、わが子たちの目にはどう映っているでしょうか。そんな親の姿を誰よりも敏感に感じ取るのが子どもです。どんな時も笑って乗り越えられるような強さを身につけられたらと願ってやみません。日々、子どもたちと真摯に向き合って下さる先生方も葛藤の連続と察します。そんな先生方の心の健康を祈り、これからも「感謝」の気持ちと「敬意」を忘れず、共に子どもたちに寄り添っていききたいと思えます。

今回の研修大会では、多くのことを感じ、自身の子育てを改めて見つめ直す大変有意義な時間が持てました。このような機会に感謝しますと共に、皆様の胸にも何かが届き、今後の子どもたちとの時間につなげていただければ幸いです。

全日本私立幼稚園連合会
設置者・園長全国研修大会



高松



副会長 安西 透

十月二〇日(月)～二十一日(火)全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修大会が四国の香川県・高松市JRホテルクレメント高松に於いて「明日にむけて私立幼稚園の振興を考える」私立幼稚園の魅力と誇りを高めよう」というテーマで開催されました。「希少糖が教えてくれること」をテーマに香川大学特任教授・何森健氏の記念講演は、最近話題になっている希少糖についてでした。興味深いものであり、参加者も女性の方が多かったため熱心に聴いていました。講演の中で「少なくともひとりぼっちでも存在するものには価値がある」ことを教えられたという話から、私たちの対象である子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であることを改めて感じました。

また、「研究は様々な人たちの信頼関係が重要で、これが新しいものを生み鍵である」という内容は、教職員同士や教



職員同士や教

職員と子ども・保護者などの信頼関係が、子どもの成長にとって大切な鍵になっていることを教えられました。

文科省幼児教育課幼児教育企画官・林俊宏氏の行政報告は、「幼児教育を取り巻く現状と子ども・子育て支援制度」というテーマでの講演でした。初めの一時間が以前から聞いていた内容だったもので、後半に最近の話題が触れられ時間がなく終了してしまっただけでも残念でした。二日目の四つに分かれての分科会では、認定こども園についての分科会に参加しましたが、各地域での概況の違いに改めて驚かされました。特に東京都の私学助成の厚さが目立っていました。

新制度に於いては園の補助金収入の減額が保護者負担となり、現状の保育料よりも増加してしまうことが多いことや、保育の質の向上が求められているが、それに見合った助成になっていて、すべての子どもたちの最善の利益にかなうものとなっているのか、また、公私の幼保間の整合性が保たれているかなどが問題点としてあげられ、今後いろいろな形で行政や議会へ訴えていかなければいけないことが確認されました。

祝

Pride of KANAGAWA

今年も私立幼稚園界に嬉しいお知らせがありました。心よりお祝い申し上げます。

旭日中綬章



学校法人誠心学園
誠心相陽幼稚園 園長
誠心第一幼稚園 設置者・園長
溝渕 誠之 先生

瑞宝双光章



宗教法人定光寺
マヤ幼稚園
代表役員・園長
渡井 和佳 先生

文部科学省教育者表彰



学校法人初音丘学園
初音丘幼稚園・スカイハイツ幼稚園
理事長・園長
渡邊 真一 先生

県民功労者表彰



学校法人まるやま学園
かおり幼稚園
園長
丸山 征 先生

神奈川県私立学校
教育功労者表彰



学校法人緑ヶ丘学園
厚木緑ヶ丘幼稚園
理事長・園長
難波 有三 先生

解説

旭日中綬章

国や公共に対して功労のある方で、とりわけ顕著な功績を挙げられた方に贈られます。

瑞宝双光章

国および地方公共団体の公務または公共的な義務に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた方に贈られます。

文部科学省教育者表彰

大学及び高等専門学校を除く国立学校、公立学校又は私立学校の校長、園長又は教員であって、学校教育の振興に関し特に顕著な功績のあった方に対して贈られます。

県民功労者表彰

公共の福祉に貢献し、その業績が特に優れた方々に広く顕彰することを目的とした県の最高表彰の一つで、団体や地域の活動などを通じて社会福祉、保健衛生、産業・経済、教育・文化、生活環境、ボランティア活動など各分野で長年にわたり活躍し、特に優れた業績をあげた方に贈られます。

神奈川県私立学校教育功労者表彰

私立学校教育の振興を図るため、知事所轄の私立学校の教職員、校長、園長、理事長及び設置者として、他の模範となる特に顕著な功績をあげた方に贈られます。

研 修 会 報 告

研究部主催

研修事業部主催

開催日	研 修 名	会 場	講 師		テ ー マ	参加者数
9/ 3(水)	相和オープン講座	綾瀬市文化センター内文化会館	和泉短期大学児童福祉学科 准教授 相馬 靖明 先生		『遊びでひろがるこどもの世界!!』	65人
9/10(水)	茅ヶ崎オープン講座	茅ヶ崎 恵泉幼稚園	人 形 劇 団 ブ ー ク 岡本 和彦 先生		『手作りの人形を通して、表現向上 ～動く人形 がらがらどんをつくるう～』	74人
9/24(水)	102条園研修会	かながわ ようちえん会館	文部科学省初等中等教育局 相原 康人 氏		『102条園に関する 子ども・子育て新制度移行について』	40人
10/15(水)	新規採用教員研修会	神奈川県立体育 センター アリーナ	玉川大学学術研究所 こころの教育実践センター Tapトレーナー 白山 明秀 先生		体験しようアドベンチャー教育 第2回	114人
10/15(水)	川崎オープン講座	川崎市中原市民館 ホール	ファミリーソングシンガー 山野さとこ 先生		笑顔と歌をポケットに	69人
10/30(木)	第 3 回 統合保育基礎講座	かながわ ようちえん会館	Nippon Data社会福祉研究所副所長・ 教育福祉研究室室長 精神保健福祉士 上原 文 先生		本当の家族支援とは〈その 1〉	113人
11/ 8(土)	公開研究保育	健正学園 ゆりかご幼稚園	長崎純心大学大学院 教授 相良 敦子 先生		公開保育	14人
	10年経験者研修会	かながわ ようちえん会館	福 島 大 学 教授 大宮 勇雄 先生		幼児期の学びをゆたかに育む ～子どもの見方を変えて保育を楽しむ～	30人
	免許状更新講習	小田原短期大学	小田原 短期大学	准教授 菊地 篤子 先生 講師 馬見塚昭久 先生	・子どもの育ちを支える者たちの連携 ・群読の技法と脚本作りの基礎演習	81人
11/13(木)	第 4 回 統合保育基礎講座	かながわ ようちえん会館	Nippon Data社会福祉研究所副所長・ 教育福祉研究室室長 精神保健福祉士 上原 文 先生		本当の家族支援とは〈その 2〉	110人
11/14(金)	湘央オープン講座	平塚市教育会館	小田原短期大学保育学科 准教授 宇佐美かおる 先生		『園児の「基本的生活習慣」を考える』	60人
11/15(土)	免許状更新講習	小田原短期大学	小田原 短期大学	講 師 野津 直樹 先生	・子どもたちにきいていく環境をとともに考える	74人
准教授 市野 繁子 先生				・発達理解と保育者の役割について		
11/16(日)				准教授 村田 紋子 先生 講師 宮川萬寿美 先生	・子どもの権利・子どもの虐待 ・子どもの共通理解と連携(幼・保と小の連携)	77人
11/18(火)	神奈川県私立幼稚園 父母の会連合会 研修大会	パシフィコ横浜 会議センター メインホール	音楽家・作家 松居 和 氏		「子育てはかすがい」 ～幼児が親心を育て、社会に絆が生まれる～	977人
11/19(水)	公開研究保育	中津幼稚園	日本女子体育大学 講師 桐川 敦子 先生		公開保育	20人
	若手後継者のための 保育勉強会	かながわ ようちえん会館	聖心女子大学 教授 河邊 貴子 先生		自園の保育を「守・破・離」してみよう！ パートⅡ～理想に向けた「破」と「離」	20人
11/26(水)	横須賀オープン講座	横須賀三浦教育 会館ホール	横須賀市立うわまち病院 小児科部長 宮本 朋幸 先生		こどもの健康管理 ～さまざまなアレルギーの対応について～	40人

編集
後記

From the Public Relations Section

安西副会長の報告のとおり、全日本私立幼稚園連合会の設置者・園長全国研修大会が香川県の高松で開催されました。香川といえはさぬきうどんということで、かつて小生もさぬきうどんを食べ歩く「うどん遍路」を重ねた一人です。ある年の始め、高松市内の友人宅で東京では珍しいものを食べさせてやると言われ、出てきたのが「あんもち雑煮」でした。白味噌ベースの丸もち雑煮で、もちの中にはあんこが入っていました。醤油ベースの角もち雑煮で育った私には衝撃的な出会いでした。もちの中にあんこを入れるのは、江戸時代に藩の重要な収入源だった讃岐三白(砂糖・塩・綿)の砂糖を、せめて正月くらいは口にしたいとの思いからだそうです。間もなく正月の準備が始まります。否が応でも気忙しくなりますので、余裕を持って事に当たっていきましょう。

広報室員 浅谷 学

教 育 相 談 室 か ら

上原芳枝先生「しなやかなパワーの集合体」

NPO 発達支援機関リソースセンター one が主催する実践講座に県連から参加させていただきました。この講座は、気になる子(発達障がい傾向性を持った子ども)の理解を深めると同時に「骨折り損のくたびれ儲け」にならないための支援を教授しています。代表の上原先生は本当にすごい方です。パワーがあふれていますが決して押し付けがましくありません。基本的な主張として「保育・教育のクオリティの向上へ、園・学校でこそ子どもはのびる!」を設定しています。そして気になる子には「きちんとやりたくてもできない事情があり、よんどころない事情がある」。この点の理解が不可欠であると主張していらっしゃいます。さて私は元々お酒が弱かったのですが、ある時から口にするのと血の気がその瞬間から劇的に下がるのを実感するようになりました。とても危ないのでアルコールにはいっさい手を出さないようにしています。これもいわゆるよんどころない事情です。子どもは幼いのでこのような説明はできません。是非県連でも上原芳枝先生にお話をさせていただきたいと思います。



教育相談員
鈴木 敦子先生
(臨床発達心理士)

相談の申し込み

電話にて公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会事務局へ申し込みください。

電話番号 045-440-3210